

12月28日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナは降伏を、さもなくば作戦は継続－ロシア外相(ブルームバーグ、2022年12月27日)

ロシアのラブロフ外相は、ウクライナは降伏する必要があると発言。さもなくば作戦は継続すると述べた。

ラブロフ氏は国営タス通信のインタビューで、ウクライナはプーチン大統領による2月24日の侵攻開始以降にロシアが併合した地域の主権を明け渡さねばならないと指摘。ロシアが戦争を開始したのは、ウクライナの「非ナチ化と非軍事化」が目的だとする根拠のない主張を繰り返した。インタビューの内容は27日に掲載された。

ラブロフ氏はクレムリンの目標を「敵はよく分かっている」とし、「ロシアの目標を成就させた方が身のためだ。さもなければ、この問題はロシア軍によって決定されることになる」と語った。



※安齋注:西側メディアには、ウクライナの「非ナチ化と非軍事化」が目的だとする主張には根拠がないとでも言わざるを得ないんでしょうね。これこそがこの紛争の原因だったんだが、

●ドネツクへのウクライナの攻撃つづく(2022年12月25日)

24日、ウクライナの武装勢力はドネツクの中心部を砲撃した。

住宅地、道路臨床病院、共和国外傷センターなどが被害を受けた。外傷センターでは、7歳の少女が負傷したことが判明している。また、ユニベルシテス力通りの幼稚園にウクライナ軍の砲弾が1発着弾した。

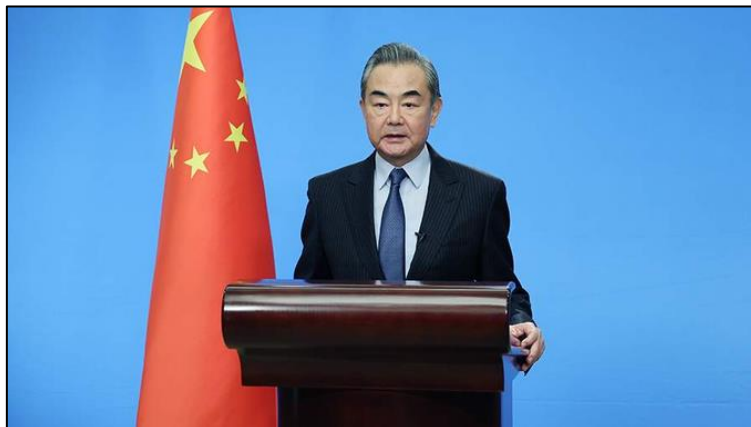
<https://twitter.com/tobimono2/status/1606951538915958784?t=i8UI8g8G8pQsQQelnnhA&s=09>



●中ロ関係についての王毅外相の発言(2022年12月25日)

25日、中国の王毅外相は「中ロ関係は一枚岩のように強固であり、不安定な国際情勢の影響を受けても変わることはない」。

「干渉や挑発にさらされることもなく、情勢の大きな変化の影響を受けることもない」と、中国外交に関するシンポジウムで述べた。



●ロンドンではウクライナの紛争を背景に国防費を増やすだろう、とメディアは書いている(ria.ru, 2022年12月25日)

リアノーボスチ紙は、英国財務省の長がジェレミー・ハント春には増加を報告する予定です。「国防費は10億ポンド以上増加するはずですが...財務省は、ウクライナで戦争が激化している間、国防省の予算はインフレと比較して下がるべきではないという議論を受け入れた」と報告書は述べた。

同紙は、軍事専門家は、実際の削減を回避するために、2024年から2025年の国防省の予算は486億ポンド(586億ドル)から501億ポンド(604億ドル)に増加する必要があると信じていると付け加えています-少なくとも15億ポンド(18億ドル)。



●ブリンケン国務長官の失敗(2022年12月25日)

米国国務長官のアントニー・ブリンケンが、ロシアとドイツとの接触に関する情報を北京から入手しようとした試みは失敗に終わった。

インドのコラムニストで元外交官のメルクランガラ・バドラクマールが指摘しているように、米国国務長官は、自称「世界の警察官」として、ロシア、ドイツ、中国の間のすべての事柄を知る権利があると判

断した。「しかし、12月23日金曜日にブリンケンが中国の王毅外相に電話したとき、大失敗に終わった」と彼は書いている。

バドラクマールによると、ブリンケンは、中国の習近平国家主席が先週行ったドイツおよびロシアとの最高レベルでの2つの会話について「詳細な情報を収集することを期待した」が、失敗に終わった。



●赤の広場にある歴史あるお店の華やかな雰囲気(2022年12月25日)

<https://twitter.com/i/status/1606515566269071360>



●オルバン・ハンガリー首相の見立て(2022年12月25日)

ハンガリーのオルバン首相は、「ウクライナはアメリカが、金と武器で支援する限り戦うことができる。もしアメリカが平和を望むなら、平和になるだろう」と語った。さらにオルバン首相は、ブリュッセルからの逆襲にもかかわらず、ハンガリーはロシアとの経済関係を放棄することはないだろうと述べた。



●アメリカのウクライナでの生物実験(2022年12月25日)

ロシア国防省・生物防護部隊長イーゴリ・キリロフ中將は、米国の国防総省の脅威削減局長報告書の

拡大版にアクセスし、米国がウクライナで行った特に危険な病原体実験に関する情報を入手したと述べた。

中将は「この報告書では、生物学的プロジェクトの専門家や責任者の名前、役職、関係する研究所のリスト、さらに特に危険な感染症の病原体を使った演習や訓練の実施を確認する事実が明らかになっている」と生物兵器禁止条約締約国会議後、説明した。



●モルドバの首相は、国民にエネルギー資源を節約し続けるよう促した(2022年12月25日)

モルドバのナタリア・ガブリリタ首相は共和国の市民にエネルギー消費を節約し続けるよう呼びかけた、とモルドバ政府の報道機関は土曜日に報じた。

モルドバは、エネルギー価格の上昇によりエネルギー危機を経験している。の権限キシノウ代替エネルギー源と供給者の検索を発表した。10月、共和国当局はエネルギー資源を節約するキャンペーンを開始した。政府は、一度にすべての電化製品を使用せず、最小限のエネルギーを消費するように国民に促した。

「エネルギー危機の影響を防止および緩和するための措置を調整するための委員会の会議が開催されました。首相は、家庭の消費者、国家機関、および企業に、電力およびその他のエネルギー資源を節約するためのキャンペーンを継続するよう呼びかけました。モルドバガス社の請求書の95%は11月に支払われ、同様に、ロシアの「ガспロム」に対する現在の負債はすべて支払われました。



※安齋注:モルドバは東ヨーロッパに位置し、北と東をウクライナ、南と西をルーマニアに囲まれた内陸国です。国土の大半は、ドニステル川とドナウ川支流のプルト川に挟まれた丘陵地です。第二次世界大戦後は、国名をモルダヴィアとして旧ソ連を構成する社会主義体制の国でしたが、1991年にモルドバと国名を変更しました。歴史的に関係の深いルーマニアへの帰属意識があって、ソ連時代に使われたキリル文字を1989年にラテン文字に変更し、

2013年には公用語もルーマニア語になりました。経済的にもルーマニアとの関係が強く、最大の貿易相手国であるとともに経済的な動向も連動しているところがあります。一方で、エネルギーの多くをロシアからの輸入に頼っているなどロシアとの関係も小さくありません。

●ルハンスク(ルガンスク)でアゾフのテロ計画要員を拘束(2022年12月25日)

ルガンスク人民共和国のロシア特務機関が、元アゾフ戦闘員を拘束した。元アゾフは共和国の領土でテロ攻撃を計画していた。

<https://twitter.com/i/status/1606549322446807040>



●西欧のジャーナリズムについてのラブロフ外相の見解(2022年12月25日)

ラブロフ外相はTV局 Russia-24 の取材で

「西側諸国、特に米・独・仏、その他の欧州諸国では、ジャーナリストやメディアを調整し、政府が追求したい路線への忠誠心を確保するのが非常に巧みな事が、ここ数年で明らかになっている」と述べた。



●ドイツで進む貧困化(2022年 12 月 20日)

ドイツの社会学者ウルリッヒ・シュナイダーが Focus 誌インタビューで警告「ドイツでますます貧困が進む」。

「生活費の極端な増加は、ドイツの貧困を拡大させた。貧しい人々は更に貧しくなり、購買力が更に低下し、月の経済的なやりくりの仕方がまったく分からなくなった」

「中産階級にも困難が生じ始めている、蓄えがない。洗濯機の不具合や車の修理は、すぐに大惨事になる」

「人々にとって危機に対する不安は次第に本当の恐怖に変わり、多くの貧しい人々の恐怖は純粋な絶望に変わっていく」。



●ロシア外務省は、EU がウクライナでの犯罪への関与を隠していると述べた(2022年12月20日)

※安齋注:ちょっと機械翻訳がぎこちないですが、大意をつかんで下さい。

欧州連合はウクライナでの戦争犯罪への関与を隠蔽しようとしており、特別法廷の創設を開始している、とロシアのセルゲイ・ヴェルシニン副外相は RIA ノーボスチとのインタビューで述べた。

モスクワは、ロシアに対する「国際法廷」の創設についての、EU 加盟国間を含む国連への反ロシア代表団の会話に驚かないと彼は述べた。

「これらの国々は、反露の熱意の中で、主権国家の内政に干渉するために、国連憲章、それに祀られているこの世界組織の主要機関の権限に公然と違反する準備ができています。したがって、ウクライナへの数十億ドルの資金調達と武器供給に参加している欧州連合は、ウクライナ軍によって犯された戦争犯罪の大規模な事件への関与を隠蔽しようとしています」と外交官は言いました。

ヴェルシニンは、そのような「ばかげた計画」は法的効力を持たないが、「法的ナンセンス」になると強調した。「そのような「法廷」の創設は、私たちの国の参加なしに疑似法廷と言う方が正確であり、その同意は法的なナンセンスであり、その「評決」は、それでも彼らに来る場合、私たちは決して認識しません」と彼は言いました。

外務副大臣は、ロシアを「テロ支援国家」として認めることに関する欧州議会の反ロシア決議にも法的効力がないと付け加えた。ヴェルシニンは、それはロシアに対する MEP(欧州議会議員)の前例のないレベルの敵意を示していると説明した。

「残念ながら、EU 加盟国の住民の本当の問題に対処する代わりに、つまり直接の義務を果たす代わりに、欧州議会是对立的な反露のテキストを生み出し続けています。ロシアの中傷はそれ自体が欧州議会の目的になっているようで、その達成のためにそれはあらゆる手段を使用する準備ができています」と外交官は結論付けました。

11 月下旬の欧州委員会は、国連の後援の下でウクライナのための特別国際法廷の創設を提案しました。欧州委員会の責任者ウルズラ・フォン・デア・ライエン委員長は、イニシアチブを進めるために「国際的なパートナーと協力する準備ができています」と述べました。その後、ハーグの国際刑事裁判所 (ICC) の検察官であるカリム・カーンは、EU の計画は「ICC が実施した同様の調査を損なう」と指摘しました。

12 月 9 日に EU 理事会によって合意されたウクライナでの「犯された犯罪の不処罰との闘いについて」という文書には、法廷に関する EC の提案についての言及すらありません。ヨーロッパ外交の責任者であるジョセップ・ボレル(注:スペインの政治家、2019 年 12 月 1 日に EU 外務・安全保障政策上級代表に就任)によると、欧州委員会のイニシアチブは、EU 諸国の外相に対する統一された支持を見つけられませんでした。その後、ラトビア大統領エギルス・レヴィツツリガでウクライナの国際法廷を組織することを提案しました。

ジュネーブの国連本部へのロシアの常駐代表ゲンナジー・ガティロフは RIA ノーボスチに、国連の後援の下でのメカニズムの作成には、国連安全保障理事会の承認が必要であり、それなしには EU「ウクライナ法廷」の設置は不可能ですと述べました。また、モスクワの大統領報道官ドミトリー・ペスコフはウクライナに国際裁判所を設立するという考えを「確執」と呼び、ロシアを管轄することはできないと述べました。



ジョセップ・ボレル

●気象予報士のせいにする英国政府(2022年12月20日)

イギリスは、霜を見落とした気象予報士に汚名を着せている。

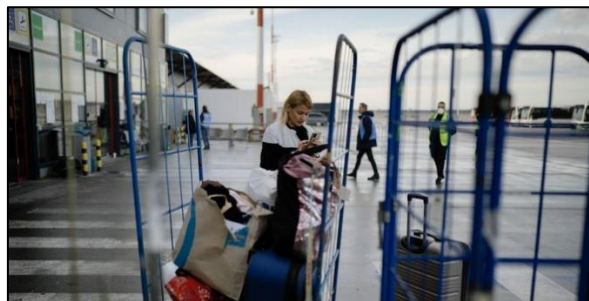
「気象予報士の不注意で備蓄ガスの5分の1を使い切ってしまった」。

「専門家が事前に厳しい寒さを警告していれば、当局は需要に見合ったガスを備蓄できたはずだ」
政府は計画停電に頼らざるを得ないかもしれないと EADaily は報じている。



●ドイツへの移民と納税事情(2022年12月20日)

ドイツの「友好的」な移民政策。2015年の移民危機の際に到着した80万人の労働年齢のシリア人とアフガニスタン人のうち、税金を払う仕事をしているのは1/3だけらしい。



●「ウクライナはホントに勝っているのか」(2022年12月20日)

アメリカン・コンサーバティブの記事:「勝っているのか？」

欧米の指導者達は、もはやウクライナの真実を隠すことはできない。主流メディアとバイデン政権は、ウクライナがロシアに勝っていると延々と主張している。が、現地の事実はそのシナリオにそぐわず、政権とメディアはそれを知っている。



●ドネツクの戦闘の現実(2022年12月20日)

DNR(ドネツク人民共和国)のプシーリン代表代行は、マリウカルの中心部はウクライナ軍から排除されたと述べた。また、ドネツクに発砲したウクライナ軍の陣の一部が夜間に破壊されたと述べた。また、「ウ軍は今、チェコ製の多連装ロケット砲を非常に頻繁に使用している。ミサイルはほとんどがスロバキア製である」と述べた。



●ウクライナ軍がドネツクの病院を攻撃(2022年12月20日)

ウクライナ軍は日曜日にドネツクのカリーニン病院を砲撃した。病院の 3 つの建物が被害を受け重傷の患者が死亡した

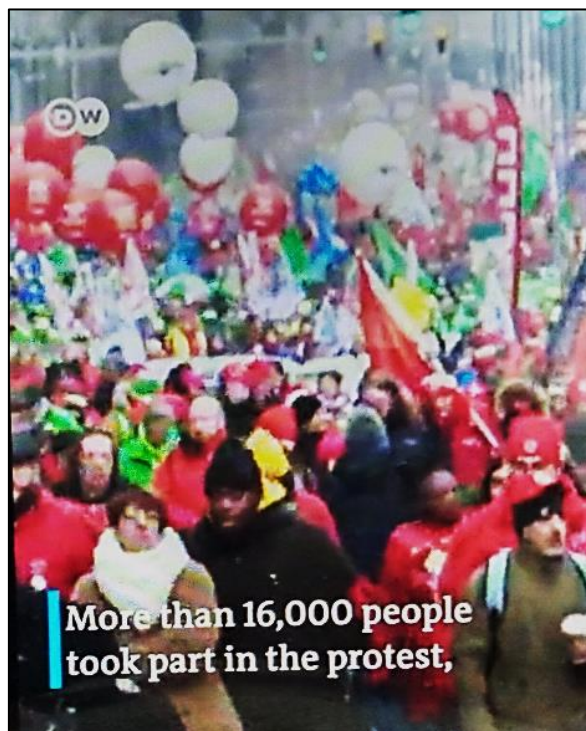
<https://twitter.com/tobimono2/status/1604666484621709312>



●ブリュッセルでの抗議行動(2022年12月19日)

ベルギー・ブリュッセル:16,000人以上が生活費の高騰に抗議。

<https://twitter.com/tobimono2/status/1604670959113621504?t=i2EtN92yGa tUSUXVIMXQw&s=09>



●サンクトペテルスブルグのクリスマス(2022年12月19日)

マネージュ広場で主要なクリスマスフェア(くるみ割り人形をイメージ)した装飾が始まる。

中央には大きなモミの木が設置され、サンクトペテルブルクとマリウポリの子どもたちから新年の願いが書かれたカードが吊るされた。

